Course number		U-LAS70 10	U-LAS70 10001 SJ50										
Course title (and course title in English)					Ins nai and	me d d	uctor's , job title, lepartment iliation	Disaster Prevention Research Institute Professor,ISHIKAWA HIROHIKO Disaster Prevention Research Institute Professor,TAKEMI TETSUYA					
Group	Semin	ars in Liberal Arts	anc	d Sciences	Number of credits 2					Number of weekly time blocks		1	
Class style seminar (Face-t		ninar ace-to-face course	-		sters	;	2024 • First semes		r	Quota (Freshma	ın)	8 (8)	
Target year	Target year 1st year students		Eli	Eligible students		Fo	r all majors		Days and periods		Mon.5		
Classroom	462, Faculty of Science Bldg. No.1 (North Campus)							Lar ins	nguage of truction Japanese				
Keyword	気象	/ 気象災害 / 防災											

[Overview and purpose of the course]

地球温暖化に関連して、竜巻やゲリラ豪雨、台風や爆弾低気圧など様々な気象情報がマスメディアを通して君たちの目の前に呈示されています。ともすればセンセーショナルに取り上げられがちな異常気象を、科学の目を通して冷静に見つめ、異常気象や地球温暖化、これらに伴う気象災害を「正しく恐れる」視点を学生諸氏に体得してもらうことが<身近な気象の変化を科学する>の目的です。

簡単な計測器で気温や気圧雨量などを測ったり、インターネットから取得した情報を使ってグラフを書いたり簡単な統計量を計算して、自らの作業を通して身近な地域の気象の変化を実感してもらおうと思います。また、海外のインターネットの科学記事を探して海外の異常気象を調べたり、海外の気象サイトからデータをダウンロードして外国の気象を調べたりすることも考えています。マスメディアのフィルターを通してではなく、気象情報解析の体験を通して、自分で調べ、確かめて真実に迫る態度を、理系・文系を問わず涵養できれば良いと思います。

[Course objectives]

- ・さまざまな気象情報の取得方法を理解する
- ・取得した情報の処理方法を理解する
- ・気象や気象災害に関して、自分で調査して「正しく恐れる」能力を涵養する

[Course schedule and contents)]

以下のテーマから数テーマ選び、1テーマあたり2-3回で進めていきます。学生からのテーマ 提案も歓迎します。

- ・気象を測る(簡単な計測器を用いて身近な気象を測る)
- ・上空の風や気温を測る
- ・外国の天気を調べる
- ・日本の竜巻と米国のトルネードを調べる
- ・自分の出身地や居住地など身近な地域の気象の変化を調べる
- ・身近な地域の気象災害を調べる
- ・気象予報はどの程度あたるのかを日々の予報から調べる

試験に代えてプレゼンテーションを行います。セミナーで扱ったテーマの中から一つを選択して、

Continue to ILASセミナー : 身近な気象の変化を科学する(2)

ILASセミナー : 身近な気象の変化を科学する (2)
オリジナルな内容を含む調査結果を報告してもらいます。
[Course requirements]
None
[Evaluation methods and policy]
平常点(出席と参加の状況)80%、プレゼン20%
[Textbooks]
Not used テーマごとに資料を配布する。
[References, etc.]
(References, etc.) Introduced during class
[Study outside of class (preparation and review)]
事前に渡す資料に目を通す程度の予習を期待します。
[Other information (office hours, etc.)]